

明日への学び

2015年 3月30日 発行
 発行：福井県教育委員会
 福井県学力向上センター
 TEL：0776-20-0295
 メール：gakuyousei@pref.fukui.lg.jp

世界的な企業の経営者の視点から学ぶこと

～福井にゆかりのある企業経営者等の授業から 「人口減少問題」や「グローバル化」について考える～

本年度、福井にゆかりのある企業経営者や、様々な分野の一線で活躍している11名の方々に、「夢や希望を育て未来を築く教室」開催事業として、13の高校で授業をしていただきました。

11名の「教員」の方々は、普段はそれぞれの分野の一線で活躍され、授業の経験はほとんどありません。実際に授業に携わった教員も、果たしてどんな話だろう、生徒たちをひきつけるような話をしてもらえるのだろうか、と不安だったようです。しかし、11名の方々の言葉は、不思議な「重み」が感じられました。授業後の生徒の感想を読むと、大きな刺激を受けていたことがわかります。言葉の「重み」の理由ははっきりしませんが、やはりこれまで培ってきた知見に基づくものが大きく、「福井にゆかりのある」郷土の先輩が、「経験してきた人生から得たもの」を精一杯伝えようとしてくださったことが、生徒の心にも届いたのではないのでしょうか。

今号では、この中から、世界的な企業で会長や社長を務められている3名の方の授業について報告します。近年、人口減少問題が声高に叫ばれており、グローバル化の動きも進んでいます。企業も現状維持の経営では成長が望めず、イノベーションが必要な時代になっています。3名の方々の授業は、高校生に夢や希望を持つ大切さを説いただけでなく、こういった現代社会の流れについてわかりやすく説明されたもので、これから激しく移り変わる社会で、子どもたちが力強く生きていけるよう、成長を支援する立場の私たち教員にとっても、有益なものでした。

「人口減少」の危機感は感じていないし、日常的に外国人と接する機会もないのに「グローバル」の必要性も実感しないのが実状でしょう。経営者の経験もないので、イノベーションと聞いてもよくわからないと感じる方も多いのではないかと思います。

目の前の生徒に対応すること、目の前の1時間の授業を有意義なものにすることは、教員にとって大切な責務です。授業を大切にし、目の前の生徒のことを常に考える姿勢は、これまでの福井の教員が積み上げてきた貴重な財産です。福井の教育のレベルの高さはこれに負うところが大きく、今後も受け継がなければなりません。そのうえで、これからの子どもたちが、変化の激しい社会を生き抜くためにどのような力が必要なのか、どんな子どもたちに育つべきなのか、時代の流れに敏感に反応し、広い視野で支援していくことが必要です。この機会に、ぜひ世界的企業の経営者の方の話に耳を傾けてみてください。

<目次>

○伊藤忠商事 小林栄三会長の授業	P 2	○報告 見えてきた「福井らしさ」～らし研～	P 14
○コマツ 野路國夫会長の授業	P 6	○報告 「中高授業改善事例に関わる公開授業⑦」	P 15
○ブラックロック・ジャパン 出川昌人社長の授業	P 10	○派遣教員報告-東京事務所に派遣されている先生	P 16
○「夢や希望を育て未来を築く教室」開催一覧	P 11	○おしらせ	P 17
○企業経営者の視点から	P 12		

全教員向け

多様な価値観を認め合える人に

～伊藤忠商事 小林栄三会長の授業～

伊藤忠商事株式会社 小林栄三会長の授業は、平成26年12月5日と平成27年2月25日の2回にわたり、若狭高校2年文理探究科で実施されました。ここでは、この授業の概要を報告するとともに、小林会長が生徒に提示された内容について、いくつかに分けてご紹介いたします。

○高校時代に様々なことを吸収

私が在籍していたころの若狭高校は、「ホーム制」を敷いていたこともあり、先輩や他学科の生徒など、多様な価値観の人たちと交流できる場所でした。グローバル社会においては、外国語を話せることはもちろん大切ですが、一番大切なことは、違った年齢、違った性別、違った国籍、違った宗教、違った文化、違った歴史…そういう自分と違った人たちをしっかりと認めて、一緒に何かを創り出していく、そしてお互いをリスペクトする（尊敬し合う）ことです。私はそのベースを若狭で習得したと感じています。みなさんもこの高校時代に、いろいろなことを吸収してください。

小林 栄三(こばやし・えいぞう)

伊藤忠商事株式会社取締役会長。
福井県若狭町(旧上中町)生まれ。
福井県立若狭高校出身。
1972年大阪大学基礎工学部卒業後、
伊藤忠商事株式会社入社。
情報産業部門長、執行役員、常務執行役員、
代表執行役員、代表取締役などを歴任し、
2004年に代表取締役社長。
2010年代代表取締役会長、2011年より現職。
福井県政策アドバイザー。

○社長時代

私は10年ほど前に社長に就任しました。会社という組織では、社員が10万人いれば、各自の仕事は10万分の1のアサインメント(割り当てられた仕事)です。しかし10万分の10万の責任を社長がとります。社長はたいへんやりがいのある仕事ですが、毎日が緊張の連続です。世界のどこで何が起きているのかなど、様々な情報を手に入れて、ものすごく勉強しました。みなさんは今もちろん勉強しているでしょうが、今後も一生勉強していかなければならないと思います。

成功もあったと思いますが、ほとんど覚えていません。失敗はよく覚えています。ただ常に思っていたことは、社員が幸せになれば絶対に自分は幸せになれるということです。社員が幸せになれば社会が幸せになり、社会が幸せになれば世界に貢献でき、その結果、絶対に自分が幸せになれると思っていました。それぐらいしか確信がありませんでした。今も会長職で仕事をしていますが、長年働いてきて会社で学んだことは、みんな素晴らしい人ばかりなので、その人の強みをどう見つけるか、逆に弱みをどう補完するか、自分がどう信用・信頼されるか、ということです。

○人口が減少する日本では、「世界の中の日本」として世界とともに成長

現在、日本はどんどん人口が減ってきています。日本で0.17～0.18%、福井県で0.5%、小浜では1.3～1.4%減っています*。人口が減ると国の元気がなくなります。今は1億2700万人を切ったばかりですが、2060年には9000万人を切ると言われています。いろいろな予測データが出ていて、当たらないものも結構ありますが、人口の推移データはほとんど予測通

りになります。今年は24万人減りましたが、みなさんが40歳くらいになる2040年には、毎年100万人以上減ると言われています。毎年、京都や神戸のような大都市が減っていく計算です。そうすると、海外からの移民を受け入れる時代がやってくるかもしれません。高齢者の割合が増える時代にもなってきます。

※人口減少率については参考値としてお読みください

一方で世界はどうでしょう。現在の人口は72億人ほどです。2100年には間違いなく100億は超えるでしょう。そのころ日本は7000万人を切っている予想です。日本がその時どうなっているかは、これからみなさんが考えていかなければなりません。日本の中だけ見ていると苦しいでしょうが、世界の中の日本と考え、世界とともに成長していくという発想が必要です。そういう意味では、海外の人と一緒に仕事をする、協力するということが非常に大切になってきます。

○好奇心は大切

今、世の中でどんなことが起こっているか。イスラム国の存在、シーア派とスンニ派の対立、アメリカでの人種差別、ベネズエラやブラジルの情勢など、世界中で様々なことが起きています。世界の歴史、宗教、民族などの知識がないと理解できません。しかしそれは、好奇心さえあれば習得できます。是非、書物や新聞を読み、社会の変化に敏感であってほしいと思います。これは「感性」と言ったほうがいいのかもしれませんが、そういう感性を持ってほしいと思います。

○これからの若狭

私も県外に出た人間なので、外から見た若狭についてしかわかりませんが、このままでは心配です。消滅する可能性のある自治体が発表されていますが^{*}、嶺南地方は敦賀以外すべてがリストアップされています。人口が少なくなると活力が失われ、さらに人口が減るという悪循環に陥ります。小浜も2年後には間違いなく3万人を切ります。放置していいのだろうかという怖さがあります。みなさんも自分の問題として受け止めてほしいと思います。今の軸足は学校での勉強にあるかもしれませんが、これからはこういった社会問題にも興味を持ってください。選挙権も18歳以上になりそうですし、世の中がどう動いているかに関心を持たなければなりません。

これからの若狭は、人口問題だけではなく、原発はどうするのか、高速道路は生活にどう影響をもたらすのかなど、様々な課題があります。受け身でなく、自分にできることを自身で考えなければなりません。J. F. ケネディは「国が自分のために何をしてくれるのだろうか」と問うのではなく、みなさんが国のために何ができるかを問うべきである(Ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country.)と言っていますが、これからの若狭がどうなるのか、みなさん自身が考えて、たとえ地元を出ることになっても応援してほしいし、できるなら具体的な支援をしてほしいと思います。高速道路の開通もいいことですが、一時の景気高揚の「魚」ではなく「釣竿」にしなければならないと思います。高速道路を造る時には、雇用もありお金が入るかもしれませんが、魚は1回食べたら終わりです。しかしそれを釣竿として活用できれば、今後

若狭高校での授業概要

＜実施校・クラス＞若狭高校2年文理探究科

＜授業テーマ＞若狭の未来について考える

＜第1回＞平成26年12月5日(金) 8:25~9:55

「小林会長の講話」「生徒からの質疑応答などのフリートーク」「小林会長のまとめの話」という流れで授業は進みました。小林会長は、講話で①これまでの人生を振り返っての話、②グローバル化の時代に若狭の未来について、③みなさんへのメッセージ、の3点についてふれていました。フリートークでは「高校時代にはどんな夢を持っていたか」「アフリカなどの発展に向けて、アフリカ各国内の生活格差はどう埋めるか」などの質問が出されました。

＜第2回＞平成27年2月25日(水) 8:25~9:55

まず初めに、「若狭の将来に臨む姿と、その実現のためにできること、しなければならないこと」という課題に対し、生徒たちが班ごとに分野を決めて発表しました。それぞれの発表についてご講評をいただき、最後に、小林会長からまとめの話をいただきました。生徒は、自分たちの考えた若狭の将来について1枚の紙に上手にまとめて発表し、小林会長からも、お褒めの言葉をいただきました。

の地域発展につながると思います。「釣竿」にするためには知恵が必要です。小浜だけでなく、日本全体が必要です。是非考えてみてください。

※ 「日本創成会議」の推計データ 第16号の1面でも紹介しています

日本経済新聞の記事：http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS0802O_Y4A500C1EE8000/

○みなさんへのメッセージ

変わってもいいですから、是非、「こんな方向へ進むのだ」という夢を持ってほしいです。「もうだめだ」と思ったらそれ以上進化しません。「自分の夢は何だ？」といつも自分に問いかけてほしいと思います。

われわれは産業界にいますが、いつも夢を持っています。社員は「夢」と言ってもよくわからないので、ビジョンに落として説明します。それを戦略に落とし、さらに戦術にし、具体的に実践するということをよくやります。高校生のみなさんとお話する機会が欲しいと思ったのは、次のようなことがあったことがきっかけです。



東京の高校生と話す機会があって「みなさん何のために勉強するの？」と質問すると、9割ぐらいが「大学に入るため」と答えました。「それは勉強する目的の一つかもしれないけれど、大学に入ったら勉強しなくていいの？」と思ってしまいます。そうではなくて、「自分を磨くためだよ」「自分の両親を幸せにするためで、自分のコミュニティに入るためだよ」「社会を良くするためで、みんなに幸せになってもらうためだよ」というふうに考えれば、そのプロセスの一つに大学があり、入る努力をしなければならないと感じるはずですが。実際には大学の「その先」があり、そこにあるものがみなさんの「夢」だと思います。大学に入ることが「夢」では不十分で、大学に入って何をして、その後どうするのかという夢をいつも持ってほしいのです。決して難しいことはありません。みなさんが「社会」を見たときに、「こんな問題（課題）があるんだ」「ならばそれに対して自分はこうしたい」、そう思うだけで十分です。もちろん、「総理大臣」や「プロ野球選手」が夢であってもいいですが、毎日の生活の中で、自分の「夢」を意識してほしいと思います。

そして、夢を実現するためにがんばってください。がんばれば必ず実現します。ネバーギブアップで、毎日毎日、一步でも半歩でもいいから前進するという思いを持ち続けるといいです。そのために勉強してください。みなさんたちより半世紀長く生きているわれわれも、今でも熱心に勉強しています。一生勉強なのです。高校で勉強したら終わりではないことをリマインド（思い起こさせる、気づかせる）しておきます。

○特技を持って

未知の世界で自分を見失わないためにも、特技を持ってほしいです。特技とは、「社会に対して自分のアイデンティティはこうだ」と表現できるようなもので、何でもいいと思います。社員の中に、JRの駅をすべて知っている、野球の日本シリーズの結果をすべて知っている、などという人がいます。私は社員の全員を把握してはおりませんが、今こうやって話していると、そんな人たちの顔が浮かんできます。それだけ印象づけることになるのです。

人間は必ず、周りの人より「上」であることが一つか二つはあります。それを持つ、持たないで全然違います。自分が非常に苦しいときに逃げられる場所、自分自身のアイデンティティを意識できる場所があり、それを自分自身が理解し、より高いレベルに行けるといいです。これからの人生において、アップダウンは必ずありますが、コーナーに追い込まれたときにどうやって逃げるかという、特技に救われることもあるのです。

○人に裏切られない限り、人を嫌いにならない

わたしの特技は、「人に裏切られない限り、人を嫌いにならないこと」です。このクラスで1か月過ごせば、全員を好きになる自信があります。好きになる、嫌いになるというのは単純なことで、好きになるのは、人のいいところを見ればいいし、嫌いになるのは、人の悪いところを見るからです。明るい人を見るときでも、「明るくていいね」と思うのか「能天気だね」と思うのかでも違います。それはポジティブにとらえ、「明るい」と思えばいい。そうすればあっという間に人と仲良くなれます。みんなが仲良くやるのは大切です。お互いに強いところを見つけ合い、認め合って、弱いところはみんなですぐ補えばいい。強いところはお互いに切磋琢磨しながら伸ばしていけばいい。人はみんないいところを持っています。見つからないとすればみなさんの努力が足りないのです。



でも、かばい合いや仲良しごっこはダメです。見て見ぬふりは最悪です。仲良くというのはお互いにリスペクトして高め合うということです。かばい合いや隠し合いは社会では全然通じません。

○心の健康

体の健康については、栄養をしっかり取って、運動をして、しっかりした体を保つことです。社会人になると、一番大切なのは体力です。体がしっかりしていないと大変ですから、体を鍛えてください。また、頭の健康ですが、これは様々なことを見聞きし、勉強すればちゃんとできます。

一方で、心の健康は、自分だけでなかなかマネージできないこともあります。先にも言ったように、コーナーに追い込まれたとき、自分の得意技でアイデンティティに逃げる方法もありますが、いつも心の健康を意識してほしいと思います。まわりの支援も必要です。心の健康を他人に与えるぐらいの気持ちでやってほしいと思います。

○多様な価値観を認め合う人に

多様な価値観を認め合う人になってください。先ほども言いましたが、いやなところがあっても皆で補い合えば、間違いなくグローバル（世界）ベースでやっていけます。今までの「グローバル化」といえば日本から外に行くことばかりでしたが、今は外から内に来てもらう「内なるグローバル化」も国として頑張っています。2013年に初めて、日本に来る外国人の数が1000万人を超えました。2014年は1300万人くらいになります。2020年には2000万人になると言われています。しかし全員を受け入れるキャパシティは東京にはありません。そういう意味では、日本の各地に行っていただく必要があります。「福井にいるのになぜ英語」と思うかもしれませんが、海外から大勢の人が福井に来ることを想定し、英語も含めた勉強をしっかりとしてください。

東京のある調査会社の人によれば、海外から日本に来た人の日本人に対する評価は「すばらしい」と「そうではない」の2つに分かれるそうです。外国人に対してもポライト（ていねいな、礼儀正しい）に「おもてなし」をしてくれる人の場合はすばらしく評価されます。ところが半分以上の人は、外国人を前にすると逃げてしまうらしいです。みなさんは是非、前者であってほしいと思います。外国人だからといっておじけづいたり、距離を置いたりしないで、多様な価値観を認められる人になってほしいと思います。自分と違った人たちをどう受け入れるかは、みなさんが成長するうえでの大きなポイントとなります。

全教員向け

自分の目で見て、自分で考える 論理的思考でわかりやすく説明

～コマツ 野路國夫会長の授業～

コマツ（株式会社 小松製作所）野路國夫会長の授業は、平成26年11月5日に藤島高校2年4組において行われました。野路会長は福井市生まれで、大学卒業後コマツに入社。コマツは、ご存知のように全世界に代理店や販売店を持ち、建設機械などの製造・販売を行っているグローバル企業で、野路会長はこのコマツで2007年から6年間、社長を務められています。

○いろいろな分野の人とつきあう

私は大学ではワンダーフォーゲル部に所属し、その仲間とは今でも年に1回は集まっています。当時の仲間は医者や弁護士が多く、当然サラリーマンもいます。工学系の人だけでは視野が狭くなってしまいますので、工学系の人以外とのつきあいができたことが良い点です。みなさんも視野が狭くならないように、いろいろな人と付き合うことが大切だと思います。

わたしは「初志貫徹」という言葉を大切にしています。いろいろな部署や土地に転勤になることがありますが、そういう節目では、がんばろうという気持ちがわきます。そういった最初の気持ちが大切で、その気持ちを貫き通すことが大切だと思っています。

野路 國夫（のじ・くにお）

コマツ（株式会社小松製作所）代表取締役会長。
福井市生まれ。福井県立藤島高校出身。
1969年大阪大学基礎工学部卒業後、株式会社小松製作所に入社。技術本部生産管理部長、コマツドレッサーカンパニー（現・コマツアメリカ（株））チャタスガ工場長、情報システム本部長、常務執行役員、常務取締役、取締役専務執行役員などを歴任し、2007年に代表取締役社長（兼CEO）。2013年より現職。福井県政策アドバイザー。

○1位でないとダメ

コマツの場合、世界じゅうのほとんどの国に進出しており、どこの国からもまんべんなく売り上げをあげています。マーケットシェア（市場占有率）が1位以上の商品が5割以上、2位以上となると9割です。以前、ある国会議員の「2位じゃだめなんですか」という言葉が話題になりましたが、やはり1位でないとダメなのです。2、3位の場合、どうしても1位を目標にして、1位を見ながら仕事をします。ところが1位の場合は、自分で新しいものを探さないので、イノベーションを起こすことができるのです。もう一つの理由は、「マーケットリーダー」は「プライスリーダー」でもあることです。販売価を自分で決め、自分でその市場を作ることができるのです。

○データの裏に隠れている（マーケットシェアと為替レート）

コマツの場合、日本で30%のシェアがありますが、30%と言っても質の問題があります。「100社のお客様にコマツの車を30%買ってもらう」と「30社のお客様にコマツの車を100%買ってもらう」のではどちらがいいか。もちろん後者のほうがいいですね。販売やサービスを30社のお客様に集中できます。新聞などで、マーケットシェア3割と書いてあっても、その中身が問題です。新聞などから得られる情報では、表面だけ見えても、会社の体質やサービスの質までは見えません。そういう見方で物事を見るのが大切です。単純にデータを一つだけ見ても、データの裏には何が隠れているのかということに注目してほしいと思います。コマツユーザーだけに売

ってれば販売価は上がりやすく、収益もいいです。お客様も集中してサービスしてくれる（急な時にもすぐ対応してくれる）から喜んでくれます。このように、データの裏には「質」という問題が隠れているのだということを見ながら、いろいろな評価をしてください。

次に、2003年から10年間の為替レートの推移を見ると、平均110円±10円です。新聞などで今盛んに「円安だ」と言われていますが、この10年間では、決してそうではありません。

さて、円安と円高とどちらがいいでしょうか。輸出にとっては円安がよく、しかし原材料などは輸入しているものも多いので、円安になりすぎても困ります。そこで「為替レート」とは何だという話ですが、「アメリカと日本の国力の差」みたいなものです。1985年にプラザ合意があり、それから変動相場制になりました。私が入社した時には1ドル360円でした。それが今100円まで上がりました。国力がどんどん上がったということになります。大きな30～40年の歴史の中で見るとそういうことになります。新聞はここ1～2年の話ばかりを書きます。円安になっても円高になっても、いつでもたいへんだと、とくに日本のマスコミは書きますので、気をつけたほうがいいです。みなさんたちが勉強するときにはもっと中長期的に見ることが大切です。

藤島高校での授業概要

＜実施校・クラス＞藤島高校2年4組

＜授業テーマ＞世界の変化とコマツの取り組み

□平成26年11月5日（金）14:20～15:50

「野路会長の講話」「生徒からの質疑応答などのフリートーク」「野路会長のまとめの話」という流れで授業は進みました。野路会長の講話では、①自己紹介、②コマツの概要、③世界や日本の基本的変化と課題、④コマツの取組み、⑤みなさんへのメッセージ、について話していただきました。フリートークでは生徒からたくさんの質問が出され、世界的な企業の会長から、直に貴重な話を聞くことができました。

○企業価値と社会貢献

コマツは「(企業価値) = (社会、*ステークホルダーからの信頼度の総和)」と定義しています。会社は儲けるだけではダメです。ちょっとした不祥事で会社は倒産します。社会からの信頼が大切なのです。会社に入ったら、そのことをしっかり覚えておいてほしいです。持続的に成長しようと思ったら、誰からも信頼される会社にならなければならないのです。みなさんが会社に入って、変な（たとえば倫理観のない）社長がいたら、勇気を出して提案（指摘）することも大切です。

コマツはベルリンの壁跡をはじめとして、桜を植える活動をしています。220万本寄付しました。わたしは福井市春山小学校の桜も支援しています。さらにコマツはカンボジアでは地雷を処理しています。世界には1億個、カンボジアだけで1千万個、地雷が埋まっています。地雷除去機を作って処理しています。処理後はトウモロコシ畑を作り、学校を作り、コミュニティを再生しています。

※ステークホルダー利害関係者のこと

コマツでは販売代理店、協力企業、社員、株主、お客様、機関投資家・アナリスト、地域社会・マスコミとしている

○人口の話

これが日本には一番厳しい話です。世界の人口は1800年で10億弱でしたが、2000年には60億人まで増えました。2050年には100億に届く勢いです。日本の人口は鎌倉時代に750万、室町時代で800万、江戸時代で1200万、明治維新のころに3300万、大戦後に7200万、高度成長を遂げてベビーブームが来て、1億2000万にまでなりました。しかし、「放っておくと2100年には明治維新に戻ってしまう」と言われています。その中で高齢者は4割を占めます。これが今の日本の一番の問題です。原因の一つには、東京への一極集中が挙げられます。東京の面積は3.5%しかないのに、人口は26%もいます。資本金10億円以上の企業の6割近くが東京に本社機能を持っています。役所も集まっています。このためサービス産業が潤い、さらに人が増えていくという構図になっています。

○東京に人が集まるほど日本の人口は減る

女性の社会進出により少子化が進んでいるという見方がありますが、実は間違いです。福井県の合計特殊出生率は1.6人で、最高は沖縄の1.94人、全国平均は1.43人です。石川県は平均値に近いです。東京は1.13人です。福井は日本一共働きをする県で、沖縄も共働きが多いです。働くほうが出生率は高くなっています。マスコミが、「女性が社会進出したから、子どもを産むと大変なので出生率が下がった」と報道しているかもしれませんが、実はそういうメカニズムではありません。物事を考えるときにはデータを見てほしい。新聞やテレビをあまり信用しないほうがいいです。東京圏はなるほど共働きすればするほど子どもは少ない。満員電車で揺られて通勤に1時間ほどかかり、子どもを預けて出勤し、帰りも子どもを迎えに行く。夫婦で協力したとしてもたいへんです。東京の論理がマスコミに流れていることが多いのです。だから、自分の目でデータを見ながら一生懸命勉強して、「なぜ？」と常に考えてほしいと思います。

福井ではあまり仕事がないということで、若者は東京圏へ行ってしまう。東京では結婚も出産もしにくく、なおかつ東京に集中するので、出生率が低くなります。つまり東京に集まれば集まるほど人口が減ることになります。1億人を維持しようと安倍政権は言っていますが、一番大事なのは地方活性化です。地方に仕事が増え、雇用を生まないと人口減少に歯止めはかかりません。

○世界と日本の課題

会長になってからは、石川県と福井県で、微力ながら様々なことを考えようとしています。世界の人口は増え、日本の人口はどんどん減っています。世界で人口が100億人までくると、食糧不足、エネルギー使用による環境破壊（温暖化—最近福井も雪が降らない）、水不足（日本にいるとわからない—自然に恵まれた国だから）などが深刻になります。化石燃料は今後どれくらい持つのでしょうか。正確な答えはないですが、昔は100年あるかないかと言われていましたが、今はシェールガスなどの登場で200～300年と言われています。なくなったらエネルギーはどうするのでしょうか。原子力なのか、もっと画期的なものが開発されるのか、再生可能エネルギー、バイオマス、太陽光など、いろいろ考えなければなりません。人間の長い歴史の中で、300年後はあつという間です。先ほど室町幕府から始まって300年の歴史を見ましたが、地球の歴史の中で見るとつい最近です。エネルギー、農業、林業、ICTなどを解決するのが世界の課題（日本の課題は地方活性化）です。難しいことですが、みなさんにはそれにチャレンジしてほしいと思います。

○コマツの取組み（イノベーション）

イノベーション^{※1}とは「新しい価値の創造」です。お客様に対して新しい価値を創造するということで、「技術革新」ではありません。Komatsu Machine Tracking System (KOMTRAX) というのがあります。建設機械にGPSや様々なセンサーがついています。IOT (Internet of thing) と言われています。位置、動き、燃料消費などがわかります。健康診断器もついています。不良が起こればすぐにサービスがチェックできます。センサーがついて通信で飛ばしていく。Machine to Machine (M to M) といいます。とってきたデータをビッグデータとして解析します。IOT、M to M、ビッグデータという言葉がよく出てきています。そこにビジネスチャンスがあります。一つひとつのものに情報がつくことはすごいことです。コマツで言うと、サービスがすぐ行えるとか、中古車価格が上がる (IOTのおかげでメンテナンスがしっかりできているから) とか、ビジネスチャンスは広がります。ビジネスモデルが変わることで、バリュー (価値) がついてくるのです。

※1 物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」(を創造する行為)のこと。一般には新しい技術の発明を指すと誤解されているが、それだけでなく新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす自発的な人・組織・社会の幅広い変革を意味する。つまり、それまでのモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こすことを指す。(ウィキペディア)

○グローバル展開するうえでプロジェクトリーダーとして大切な三つのこと

グローバル展開するうえで、プロジェクトリーダーとして成功するためには、右の3点が大切です。これがないと、欧米勢を相手にプロジェクトリーダーとしてやっていけません。

- ①イコールパートナー意識を持つ
- ②現場熟知（頻繁に現場に行く）
- ③ロジカル（論理的思考）をもつ

イコールパートナーとはどんな人に対しても対等であるということです。日本は、「お客様は神様」といいますが、欧米ではお客様もパートナーです。たとえば鉱山会社（300ダンプトラックを100台くらい買ってくれる）に行くと「コマツのおかげで生産がしっかりできて利益を上げています」と言ってくれます。日本の古いお客さん（自分より年上の客）だと、「おうコマツ来たか…」と偉そうにします。みなさんは、たとえばインドネシア人、タイ人などを下に見ていませんか。インドネシアにはインドネシアの歴史と文化があり、インドネシア人の話をよく聞いて、理解して仕事をしなければいけません。それをダイバーシティといいます。

二つ目に現場に出向くことが大切です。人口問題もそうですが、自分でデータ（現場）を解析する（見る）ことが大切で、そこに大きなヒントが隠されています。現場へ行って自分で見て感じて、そして自分で考えることです。

三つ目に論理的思考をもつことです。みなさん幾何の問題とかを解くときに、一つのやり方だけでなくいろいろなやり方を学習したと思います。同じ答えを出すのにいろいろなやり方で答えを出していく習慣をつけるのは、論理的思考に非常に役に立ちます。物事を考えるときに、いろいろなやり方があり、いろいろなアプローチがある。そういう思考回路をもっていないと、相手に対して説得力のあることは言えません。欧米の人たちと対等に張り合っていけないでしょう。理科系の人は特にそうです。コンピュータで解析したらこうでした、というだけではダメです。素人でもわかる形で説明できるのが大切で、自分の論理をしっかりと説明できる能力を身に付けなければなりません。そのためには、学校で習った方程式などをそのまま真に受けてやっつけてはダメです。

そしてもう一つ付け加えると、「失敗を恐れない」ことも大切です。コマツは敗者復活が結構あります。現場での失敗、経験が成長のカギで、これがないとこの三つも育ちません。

○みなさんへのメッセージ

福井を大事にしてほしい。福井を忘れないでほしい。小さいころに育った環境は、年をとると絶対に思い出します。自然は生きる力を私たちに与えてくれます。自然を大切にしてください。できれば福井に残り、福井で活躍して、福井を盛り上げることもお願いしたいと思います。

もう一つは武士道です。うそをつかない。正直なことを言う。正しいことをする。正義感を持つ。浪花節的なことかもしれないけれど、日本人独特の義理人情はみなさんの中で育っています。ぜひ大事にしてほしいです。

三つ目は、何度も言いますが、他人の情報を鵜呑みにしないことです。自分でデータを集めて、自分の目で見て考え、自分なりに相手にわかりやすく説明するというのをぜひお願いしたいです。

コマツでは「なぜなぜ5回」と呼んでいます。 「なんでこうなんだ」「どうしてなんだ」というように物事の原理を追求して、モノづくりの楽しさを感じてもらいたいです。そして、いい商品を出したり社会に役に立つ商品を出したりして、イノベーションを起こすような人間になってほしいと思います。



全教員向け

英語は行動範囲や将来の選択肢が 広がる大切なツールである

～ブラックロック・ジャパン出川昌人社長の授業～

「ブラックロック・ジャパン」出川昌人社長の羽水高校での授業は、3回シリーズで行われました。「ブラックロック」は世界最大級の資産運用会社で、400兆円もの資金を顧客から預かり、運用しています。出川昌人社長については、第16号でもインタビュー記事を掲載しておりますので、今回は、3回の授業でのお話から抜粋して、短めにまとめてみました。

出川 昌人（でがわ・まさと）

ブラックロック・ジャパン代表取締役社長。

1957年旧武生市生まれ。1973年武生高校入学。

1974年イギリスのアトランティックカレッジに留学。

1976年オックスフォード大学に入学し、1979年に同大学院を卒業。1982年国際的に有名なシンクタンクであるブルッキングス研究所に入所。

1985年以降、外資系金融機関のモルガンスタンレー、JPモルガンを経て、2007年にフランスを代表する金融機関であるソシエテジェネラルアセットマネジメント(現アムディ・ジャパン)の社長に就任。

2010年11月から現職。

○みなさんには無限の可能性がある

わたしは旧武生市に生まれ、武生高校を1年で中退して、イギリスのアトランティックカレッジに留学しました。高校入学後、勉強もしていましたが、人と違ったことをしてみたいという気持ちをいつも持っており、そのころに英字新聞の留学特集記事に目が留まり、UWC (United World Colleges) に応募しました。

留学当初、いきなり微積の授業を英語で受けて真っ青になりました。しかし教科書をノートに丸写しすることから始めて、3か月くらいで理系の授業にはついていけるようになりました。突然英語だけの環境に放り込まれても、16, 7歳くらいの年齢なら、3か月くらいで何とかなるものです。日本での勉強量を維持すれば、他国の人を簡単に追い越すことができます。

40年前は、現在のみなさんと同じ立場でした。私も40年前にこんな仕事(外資系金融会社の社長)をすることは思ってもみませんでした。みなさんには無限の可能性があり、やる気さえあれば、私を超えることは簡単です。ぜひ頑張ってください。

羽水高校での授業概要 クラスは2年1組

<第1回>平成26年9月30日(火)9:50~11:20

授業テーマ 「みなさんの夢は何ですか」

「出川社長の講話」と「質疑応答」があり、講話では、日本の現状と課題、英語の有益性、チャレンジすることの大切さについて話を聞きました。

<第2回>平成26年12月16日(火)9:50~11:20

授業テーマ 「変化する時代に」

「出川社長の講話」に加え、「外国人労働者を受け入れるべきか」という課題について、グループ討論を実施しました。

<第3回>平成27年2月3日(火)9:50~11:20

授業テーマ 「お金について勉強しましょう」

講話では、お金の役割や通貨価値の変動による社会の変化について学び、日本の輸出入や円安の利点・欠点についてグループ討論を実施しました。

○日本はどんな国かを理解し、語れるように

他国の人と話をするときには、みなさんが日本人だと思って話をします。言語さえ話せばいいというのは間違いで、内容のある話ができないと話をしてもしろくありません。日本がどういう国なのか、歴史、地理、文化、生活などもしっかり勉強して、日本のことを話せるようになることが大切です。

日本という国は、面積は世界の0.25%(世界62位)ですが、人口は1.8%(世界10位)で、GDPに至っては8.3%(世界3位)です。1956年ごろから1970年代にかけては、毎年平均約16%で成長していました。5~6年前の成長著しい中国でさえ年率10%程度でしたから、驚異的な数字で

成長を遂げ、現在も世界経済において大きな影響力があります。

また他国の人たちの日本に対する印象も良好で、日本を尊敬している人も多く、ブラックロックのフィンク会長も、日本は「清潔、親切、安全、健康、勤勉」な国であると絶賛しています。

○グローバル化が叫ばれています

日本は低成長の時代に入っています。日本の中だけにいても大きくなれないので、国外に出ていけないといけなくなっています。日々生活するうえで、今までだと日本で作って使っていたものが、他国から輸入しないとできないという時代になります。たとえば食糧なども、これからは輸入がどんどん増えていくと思います。いろいろな意味で、世界と一緒にやっていかないと日本は生きていけない状況になってきます。そういう意味でグローバル化が必要です。日本はグローバル人材を輩出しようと一生懸命になっています。それがみなさんにかかっているということになります。

○英語は活躍する分野や将来の選択肢が広がる大切なツールである

インターネットの普及で、一気に英語が世界の公用語になりました。英語が使えると、行動範囲や将来の選択肢が広がります。英語は使えるようになることが大切です。たとえば自転車について勉強しても自転車に乗れるようにはなりません。実際に乗る練習をして初めて乗れるようになります。乗れるようになると行動範囲が広がります。英語も同様、実際に使ってこそ初めて使えるようになります。使えるようになれば、活躍する分野や将来の選択肢が大きく広がっていくのです。

○チャレンジすることはギャンブルではない

たとえば宝くじは期待値が半分もなく、損をする確率は非常に高いです。では夢を持ってチャレンジすることはギャンブルでしょうか。たとえば留学した場合、3か月もたてば十分に英語を話せるようになり、他国の人と交流することが可能になります。ギャンブルは、努力しても成功する確率は高くなりませんが、チャレンジすることは、みなさんが努力するだけで成功する確率が高くなるのです。「自分

が将来こうなりたい」という夢をしっかりとって、チャレンジしてほしいと思います。努力すると成長の可能性は無限です。自分自身を信じましょう。どういう人間になりたいのか、どういう仕事をしたいのか、真剣に考えてください。真剣に考え、行動した人には、別の運命が待っています。

「夢や希望を育て未来を築く教室」開催一覧 平成26年度 初回開催順

講師（役職等）	実施校等	日程	内容等
内田幸雄氏 （JXホールディングス 副社長）	敦賀高校 2年	①5月30日 ②7月10日 ③10月24日	次世代エネルギーを考える
田畑直樹氏 （葛西臨海水族園 園長）	高志高校 1年	①7月16日 ②11月28日	野生生物の保全と動物園の役割を考える
熊谷一雄氏 （日立製作所 名誉顧問）	美方高校 1年	①9月19日 ②12月18日 ③2月20日	生き生きとした生活を送るために – どのような立場でも覚悟を決める –
出川昌人氏 （ブラックロック・ジャパン社長）	羽水高校 2年	①9月30日 ②12月16日 ③2月3日	みなさんの夢は何ですか 変化する時代に お金の勉強をしましょう
小松長生氏 （指揮者）	三国高校 1年	①10月2日 ②11月13日	指揮者は必要か – リーダーシップを考える –
前野博紀氏 （華道家）	若狭東高校・ 福井農林高校 （ともに2年）	①10月23日 ②12月10、11日 ③2月19日	花が教えてくれること – 未来に花を咲かせよう
武藤昌三氏 （シノエテクノロジー社長）	武生高校2年 武生工業高校2年	10月24日 2月13日	新しいことを考える力をつけよう
野路國夫氏 （コマツ会長）	藤島高校 2年	11月7日	世界や日本の変化 – コマツの取り組み –
清水英明氏 （スペースシャワーネットワーク社長）	鯖江高校 1年	①11月19日 ②12月16日 ③2月18日	価値を見つけ高め広める
三屋裕子氏 （日体協ラグビー少年団副本部長）	奥越明成高校 2年	①11月21日 ②2月16日	夢を実現させるために
小林栄三氏 （伊藤忠商事会長）	若狭高校 2年	①12月5日 ②2月25日	若狭の未来について考える

全教員向け

企業経営者の視点から

～「人口減少問題」や「グローバル化」について考える～

日本を代表するグローバル企業の経営者の、講話内容を報告しましたが、三者のお話に共通しているのが、「人口減少に対する危機感」と「グローバル人材育成の必要性」です。福井で教員をしているわれわれにとっては、あまり実感も切迫感もない感覚なのではないでしょうか。しかし子どもたちが大人になるころには、危機的な状況が迫っていることも予想されます。このような社会を生き抜いていかなければならない子どもたちを支援できるよう、企業経営者の視点に注目してみたいと思います。

○人口減少問題の現状

人口減少問題は、三者とも大きく取り上げられました。その内容は次のように整理できます。

ここ5年ほどの人口減少率は0.17～0.18%であり、今後ますます加速していく。加えて2040年の高齢者(65歳以上)割合が全人口の3分の1近くになるとの予測^{*}もあり、労働力不足が深刻となる時代が来る。GDPも現在は低成長をкаろうじて維持しているが、今後、減退が避けられない状況になることが予想される。このような状況下では、よりいっそう、国外とのつながり(国外へ出る、国外から招き入れる)が大切になり、他国と一緒に仕事をしたり、協力したりということが必要になってくる。 ※国立社会保障・人口問題研究所の推計データから

したがって「グローバル人材の育成が必要」ということになるのだと思います。「グローバル人材」という言葉は、世間一般でも盛んに使われています。大雑把に言えば「世界的に活躍する人」ということになるのですが、どのような資質のある者がグローバル人材かと言われると簡単には定義できません。三人の方の授業から、必要な資質についてまとめてみます。

○互いの価値観を認め合える、自国のことも語れる

野路会長の授業では、「イコールパートナー意識を持つ」ことがプロジェクトリーダーとして必要な条件であるという話がありました。小林会長の授業では、年齢、性別、国籍、宗教、文化などを超えて、自分と違った人をどう受け入れられるかが大切であるとの話がありました。日本国内では、まだまだ国外の人との交流はそれほど多くなく、異国の文化に抵抗を感じる体質が残っています。しかし今後は、国外の人と対等で尊敬し合える関係を築いていくことが重要です。

それと同時に、自国の歴史や文化などを語れること、日本や日本人の良さを理解してもらうことも大切です。国外で仕事をする場合に、他国の文化を柔軟に受け入れ、順応することももちろん大事ですが、日本人としてのアイデンティティや誇りを持ち、日本人の良さを保ちながら活動ができることも大切です。繊細な気配りなどは、日本人の良さとして世界でも認められています。

○論理的思考でわかりやすく説明できる

野路会長がもう一つ挙げているプロジェクトリーダーの条件として、「論理的思考」があります。お互いが理解し合ううえでは、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることが必要ですし、難しい

内容を説明する際には、公式や論理構成など本質的なところから、かみ砕いて伝えることが必要です。内容にも説得力が必要です。説得力のある説明には、論理的思考が大切です。論理的に説明できなければ、相手を納得させることはできないでしょう。

○グローバル人材育成についての誤解

企業経営者と当該校教員との懇談を実施した時に、「英語科の先生だからグローバルな人材を育成できるかというところではない」という指摘を受けたことがありました。教育現場ではグローバル教育に対する理解がかなり浸透してきていると思いますが、「グローバル教育は英語科の教員の仕事である」という「誤解」をしている場合もあるのではないのでしょうか。出川社長が言うように、これからの時代は「英語がグローバル社会を生きるうえで大切なツールである」ことは間違いありませんので、子どもたちに英語の力を身につけさせることはもちろん大切ですが、英語を使えばグローバル人材なのではありません。福井にいれば英語を話せることは特技かもしれませんが、いざ英米の空港に降り立ってしまえば、英語を話すのは当たり前の世界です。その当たり前の世界から先に必要なものが、グローバル人材に要求されるものではないのでしょうか。

○地方創生の意味からも「イノベーション」はキーワード

野路会長は今回の授業で、イノベーション^{※1}とは、単なる技術革新ではなく、「新しい価値の創造である」と述べています。経済の衰退が予想される時代に企業が生き残るためには、グローバル展開に加えて、イノベーションを起こすことが必須の時代だということです。

イノベーションというと、パソコン OS の Windows や、iPhone や iPad の出現のように、IT ビジネスでの技術革新が印象的で、簡単に起こせるものではないように感じます。一世を風靡するような変革は確かに簡単ではありませんが、身近なところでも、小さなイノベーションは起こせるはずです。今回、スペースシャワーネットワーク（株）の清水英明社長は、「価値を見つけ高め広める」というテーマで授業をされました。この授業では、一つの「モノ」に対して、その「モノ」の良さ（価値）を見だし、どのようにその「モノ」の良さをレベルアップし、どのように広めていくかで新たな付加価値が生み出されることを、生徒たちはグループワークで体験しました。「新しい価値の創造」という意味では、これも一種のイノベーションではないのでしょうか。

東京への一極集中の大きな要因として、地方に仕事がないことが挙げられます。地方を盛り上げるためには、いわゆる「起業」をし、新しい仕事を増やしていくことも大切です^{※2}。地方創生の意味からも、イノベーションを起こせる人材の育成は、一つの重要なポイントとなってきます。

※1 9ページの注釈も参考にしてください。

※2 17ページの渡邊先生の記事もご覧ください。

○教員もいろいろな情報に敏感になって、自分で考える

野路会長の「教員との懇談会」では、20代の教員に対して次のような助言をいただいています。

20代の教師としてどうあるべきかを常に考え、それを実行するのが大切です。先輩の話を聞いたり、視野を広げていろいろな世界を見たりして、自分の中で自分という教師の在り方を考える方がいいと思います。「世の中がどうなっているのか」をつかむ中で、必ずヒントがあります。ただ単にまねをしてもだめです。文化も歴史も違うけれど、自分はどうあるべきかを考えてください。多少時間がかかるかもしれませんが、物事を考えるうえで大切な見方だと思います。

20代の教員に限らず、情報に敏感になり世の中を知ることで、子どもたちの将来を見据えた支援ができるようになるのではないのでしょうか。

報告
全教員向け

見えてきた「福井らしさ」

～「福井らしさ」を探る会が国研で発表しました～

第17号で紹介した、福井県に他県から派遣された先生方が、アドバイザーである国立教育政策研究所の千々布敏弥総括研究官主催の指導主事研修会（平成27年2月7日：東京 国立教育政策研究所）で「見えてきた福井の教育」と題して発表しました。研修会には熊本県や神奈川県などをはじめとする教育委員会関係者や公立学校の管理職など約30名が参加されました。この様子をご報告いたします。

【第1部】千々布敏弥総括研究官の講話

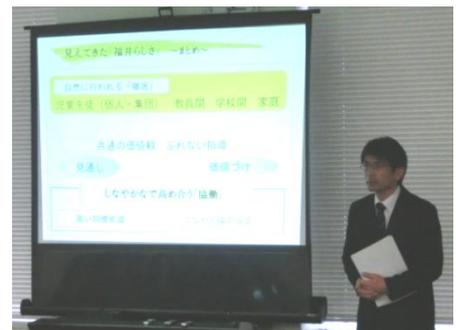
昨年12月に発刊された「※プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティによる学校再生」（著 千々布敏弥 教育出版）の内容に沿って、学校組織文化の意義や学校組織文化が効果的に機能している秋田県と福井県の特長についてお話をされました。

- ・都道府県の学校文化の違いから「教師の育ち方」「組織文化と授業研究」について説明した後、プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティを実現している秋田県と福井県を紹介。
- ・秋田県については、県教委主導で全県で取り組まれている授業スタイル等について紹介。
- ・福井県については、教員間のコミュニケーションの高さが全国トップであることを上げ、「授業規律」「無言清掃」「教科のタテ持ち」「教科会・学年会」等について紹介。

※本号17ページの「お知らせ（参考図書）」で紹介していますのでご参照ください

【第2部】見えてきた「福井らしさ」の発表

「福井らしさ」を探る会の代表4名が分担をして、以下のような内容について発表をしました。発表後の質疑応答では、「学力調査の分析と改善方法をどのように学校現場に広めているのか」「先生方の授業改善に対する意識が高いが、どのような工夫をされているか」「自県に戻った時に福井県のどのような取り組みを持ち帰りたいか」などの質問がありました。また、「福井では教科のタテ持ちなど様々な場面で先生方がつながる場がつけられており、そのような環境の中で高い同僚性が生まれ、全職員がチームとして子どもを指導されているところが素晴らしい」といった感想をいただきました。



【第2部】発表の様子

【発表内容】

- ①はじめに～ふくいの教育～
 - ・福井の教育を支える基盤（学校・家庭・地域）
 - ・福井県独自の取り組み（少人数学級・英語教育・サイエンス教育・白川文字学）
- ②見えてきた「福井らしさ」～学習指導～ 「授業」「タテ持ち」「教科会」「家庭学習」「朝学習」「県学力調査」
- ③見えてきた「福井らしさ」～体力向上～ 「業間体育」「環境づくり」「体カテスト」
- ④見えてきた「福井らしさ」～生活指導～ 「規律の徹底」「無言清掃」
- ⑤見えてきた「福井らしさ」～校種間連携～ 「教員の特性」「保幼小連携」「小中連携」「中高連携」
- ⑥見えてきた「福井らしさ」～学校経営・教員の育成～ 「スクールプラン」「高い同僚性」「コアティーチャー養成事業」
- ⑦見えてきた「福井らしさ」～まとめ・自県で取り組みたいこと～ 「しなやかで高め合う協働」

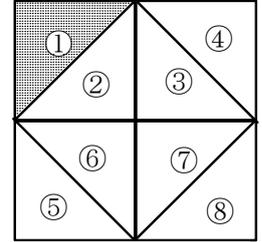
公開授業
報告

中高の接続に焦点を当てた授業で
中高授業改善交流会（数学）が行われました

H26. 11. 18 於：大野市陽明中学校

□公開授業 ・授業者 下口 真砂代 教諭 ・授業クラス 1年1組 ・参観者 合計14名

図形カードを操作することにより、図形の平行移動、回転移動、対称移動の性質を見だし、図形の移動を数学の用語を用いて説明する授業



図形カード

中学1年生で学習する「平面図形」の単元では、平面図形の観察、操作などを通して図形に対する直観的な見方や考え方を深め、図形の基本的な性質や構成についての知識を習得するとともに、作図をしたり、図形の移動を論理的に説明したりする技能の習得をねらいとしています。

本時では、左上（①の位置）の三角形を②～⑧の位置に移動させるときに、どのような手順で移動させればよいかを考えさせ、そのあとに「線対称」、「点对称」、「合同」、「ずらす」、「折り返す」、「対称の軸」、「対称の中心」などのキーワードを用いて説明させました。生徒たちは、個人で移動の手順を考え、ペアやグループで意見を交流し、キーワードを用いながら説明することを通して移動のイメージをとらえ、数学の用語を用いて論理的に表現する力を身につけていました。



まず個人で考える



考えた手順を黒板で説明

□研究協議会 ・参加者 合計10名

＜授業者のコメント＞ 別のクラスでこの授業をやったときに、予想以上に生徒からいろいろなキーワードが出てきてスムーズに進んだため、今回は後半のプリントの問題のレベルを上げた。しかし、本時では生徒のつぶやきが普段より少なく、生徒の発言をつなげることができなかった。今日の授業で疑問に思ったことを感想に書いている生徒がいるので、その疑問を次の授業につなげてまとめていきたい。



キーワードを引き出す



最後に応用問題に取り組む

－授業研究会での話題をピックアップ－

＜高校教員＞

- ・下口先生はつぶやきが少なかったと言われていたが、生徒は十分意見を言って授業に参加していたと思う。高校の授業でももっと生徒にしゃべらせないといけないと思った。
- ・生徒にとっては対称移動、平行移動、回転移動の順に理解が難しくなる。今回の授業ではいくつかの移動を組み合わせで何回移動させてもよいとされていたが、移動は1回だけと限定すると、②～⑧の位置によっては必ず回転移動をしなければいけないものが出てくるので、より多くの種類の移動について考えることができたかもしれない。
- ・一人ひとりに図形カードを準備され、そのカードを実際に動かすことによって図形の移動のイメージができあがっていくのだと感じた。高校ではなかなか具体物を使う機会が少ないが、このような作業をさせることも大切だと思う。
- ・今回の回転移動や回転角は高校での三角関数などの学習につながる大事な内容である。新課程になって複素平面が出てきて、回転移動がより重要になった。

＜中学校教員＞

- ・下口先生の生徒のつぶやきを引き出してつなげていく技術は素晴らしいと思った。授業の終わりに必ず振り返りをさせているのも大事で、生徒たちは今日の授業で疑問に思ったことを自分の言葉で書いていた。数学の用語を大切に言語活動を意識した授業をしておられることに感心した。
- ・全国学調でも回転移動の問題の正答率が悪かった。ある角を回転移動させたときに、どの角になるかが分からない生徒が多い。今の段階で対応する角や点について、具体物を使ってしっかりと意識させておくことが大切である。
- ・今日のような作業を取り入れると時間が足りなくなるが、高校はもっと時間が限られている。小・中学校の段階で具体物を操作して図形や移動についての概念形成をしておくことが、高校の学習につながるのではないと思う。

＜福井大学 伊禮三之 教授の助言＞

- ・今日の授業では、数学の用語を使って説明するという言語活動を意識されていたが、高校でも言語活動は取り入れていかなければいけない。また、それぞれの校種のレベルに合わせて具体物を使った活動を取り入れることも必要である。
- ・生徒たちからキーワードを引き出していく活動は素晴らしい。生徒がもっている素朴な概念や表現を、教師の教育的介入によって数学の用語やより専門的な内容に洗練していけばよい。

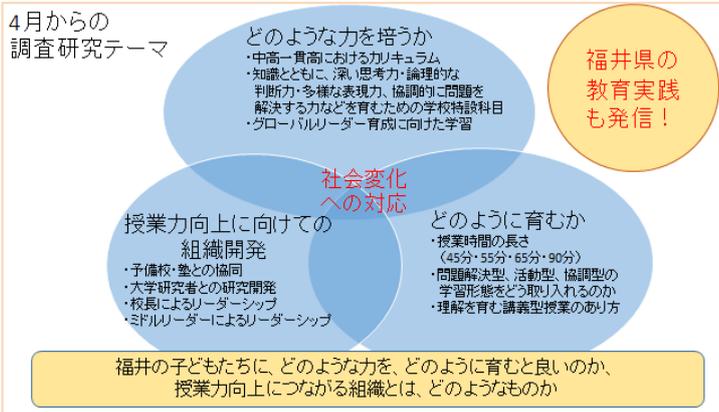
※この授業の様子は、教育情報フォーラムでも公開中です

連載

「派遣教員インタビュー」⑥ ～渡邊教諭～

今回は、今年度、福井県から東京事務所に派遣されている、渡邊久暢先生です。東京事務所への派遣は、昨年度に引き続き2人目です。

○1年間の業務内容



渡邊久暢先生

首都圏各所の教育機関等に訪問し、調査・研究活動を行っています。中高一貫校では、

開成、海城、筑駒、聖光などにのべ40回、公立高校には、浦和、日比谷、西、千葉などにのべ35回訪問しました。「21世紀型教育・探究的な学習の展開」「組織的な授業力向上」などを調査研究

のテーマとしています。また東進ハイスクールなどの予備校・塾にもものべ60回訪問して、「塾の教育実践」や「社会状況の変化を踏まえた新しい取組み」について調査しています。

さらに、もう一つのミッションとしては、福井の教育の情報発信が挙げられます。全国大学国語教育学会をはじめとして、10回以上にわたり、「福井の教育実践」について研究発表や報告を行っています。また大学の研究者への訪問や、中教審等の審議会の傍聴もしています。

○印象に残っている三つのこと

① リーダーシップ教育の充実

開成中学・高校の柳沢校長先生からは3度お話を伺いました。東大合格者数34年連続日本一の学校であるだけに、さぞかし勉強ばかりしているのではないかと、というイメージがありましたが、学校行事や部活動において協調的な問題解決を求めるような仕掛けが多くなされていました。中学1年生に対して高校3年生が指導するような場面も多いなど、異年齢の生徒同士の交流場面を多く取り入れることで、リーダー性の育成にも力を入れていることがわかりました。また海城中学・高校は演劇を取り入れた授業や、野外体験型授業、論文作成などを取り入れた様々な特設科目を多く取り入れています。私立超トップ校においても、特別活動や学校設定科目を通して多様な力を育むことで、将来のリーダーを育成しようという工夫がされていることがわかりました。

② 予備校における授業の実際

東進ハイスクールでは、講師がテレビに多く出演していることなどから、「どうだ、この解き方」みたいな、鮮やかな講義をされるのかと思っていました。しかし実際に拝見すると、ある意味地味で、着実に学習することを勧める講義でした。英語・数学・国語、どの教科の先生からも共通していただいたアドバイスは、「東大を受験するような生徒であっても、高校1年生のうちから大学入試問題を使った演習や、難しい問題をやらせる必要はない」「教材の量は最小限にして、少ない教材を用いて徹底的に本質をマスターさせる」の2点で、進学校の授業展開を考える上で、たいへん参考になるご意見でした。

代々木ゼミナールでは、超難関大学志望者に対して、大学進学後にも有用な力を育もうとする取組みを始めています。「リベラル読解研究」という講座では、10人程度の少人数でのディスカッション形式で授業が進んでいきます。ここでは、教科の枠を超えた読解力、思考力、表現力を培うことを狙っています。このような取組みは、河合塾でも行われています。

③ 大学研究者・教育委員会との連携による授業力向上の取組み

大学と教委との研究連携という観点からは、埼玉県教委とさいたま市教委の取組みが特徴的です。埼玉県教委は東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構(通称 CoREF(コレフ))およびインテル株式会社との連携により、「未来を拓く『学び』推進事業」に取り組んでいます。高校生のコミュニケーション能力、問題解決能力などを育成することを目的に、三宅なほみ教授が推進する「知識構成型ジグソー学習」に基づく授業改善を図っています。

また、さいたま市教委は東京大学市川伸一教授と連携して、同教授が推奨する「教えて考えさせる授業」に基づく授業改善を図っています。福井県でも、羽水高校が福井大学と連携を始めていたり、多くの学校で教職大学院との連携も進んでいたりしており、組織的な授業力向上には、大学研究者との連携が有効です。ただし、研究理論で示された授業形式だけを表面的に取り入れることになりがちですので、そうならないよう注意が必要だと考えます。

○グローバル志向の波

東京特有の教育事情という観点からは、海外在住体験を持つ保護者の急増した結果、保護者や生徒の間で、海外進学への関心が高まっていると感じます。開成の柳沢校長は、「国内の大企業や官庁への就職以外の選択肢を考え始めているように感じる」と述べておられましたが、その傾向は超エリート層には留まらないようです。幅広い階層の保護者や生徒が海外の生活や学校教育を体験しており、価値観が多様化しているように感じます。今後は、福井でもそうなるのではないのでしょうか。

○社会の変化に対応した学力の育成

先進的な取り組みを行っている学校の先生方が、異口同音に「21世紀に求められている人材は、正解のない問いに対して、多様な人々と関わり合いながら、協同的に問題解決することで、最適解を導くことができる人であり、そういう人材を育てていかなければならない。」とおっしゃっています。

保護者の間でも、社会の変化に対応した新しい学力、例えば「協働する力」「グローバルマインド」などに対する関心が高まっています。そのような学力を「アクティブラーニング」などの新しい学習スタイルで学ばせる学校にも注目してきています。その結果、最近の私立学校の募集案内には、21世紀型学力に関する用語があふれています。この傾向は徐々に地方に波及するのではないのでしょうか。

○地方を「興す」人材の育成を

このような中、福井ではどのように取り組んでいくと良いか、次の2点を提言させていただきます。

- ① 高校卒業後、すぐ地域で就職する生徒たちにこそ、21世紀型の学力を培おう。
- ② 大学等の卒業後に「福井に帰り、仕事を興す」人材を育てよう。

福井を離れてみて、改めて福井のすばらしさを実感した今、私自身は次年度現場に戻った際には、「郷土福井を愛し地域を創成する人材の育成」に力を入れたいと考えています。特に、高卒後すぐに地域で就職する生徒たちは、地域の宝となって活躍する人材です。そんな生徒たちにこそ、これからの社会において必要な力（いわゆる「21世紀型学力」）の育成を図りたいと考えます。

大学等に進学する生徒たちに対しても「福井に帰って仕事を興し、地域を発展させる人材」になってほしいと考えます。2013年度の人口動態において、25～39歳では岩手県や島根県などで人口流入が流出を上回っています。「働く所がないから福井に帰れない」と考えるのではなく、「仕事が少ない福井だからこそ、福井で仕事を興し地域を発展させたい」とも考えてほしいと思っています。

島根県の海士町では地域の魅力を再発見する様々な取り組みが成功しています。本県でも、総合的な学習の時間等を活用して、地域の魅力や課題を学ぶことができないかと考えます。グローバル社会で通用する力を持って、グローバル人材とつながりながら、ローカル地域の持続的発展を志す人材の育成を福井で実践し、それを日本全国、さらには世界に発信できないか、という夢を持っています。

お知らせ

参考図書

■千々布 敏弥「プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティによる学校再生」 教育出版

本書は、日本の学校の校内研究が海外から「ジュギョウケンキュウ」として注目されているが、それを「プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティ（プロ学習コミュニティ）」の視点から、今まで「日本にいた青い鳥」を学校再生すなわち「日本にいる青い鳥」として一層充実させたいと願い、その方策を事例に基づいて熱く説いている。読み応えのある高著として紹介する。

- | | | | |
|-----|--------------------------------------|-----|-------------------|
| 第1章 | 学校という船が、新しい時代の流れに沈まないために | 第2章 | 教師の育ち方 |
| 第3章 | プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティを実現している日本の学校 | | |
| 第4章 | 授業研究の意義と実態 | 第5章 | カザフスタンから見た日本の授業研究 |
| 第6章 | 話し合いで考えを深める授業の創造 | | |
| 第7章 | 県としてプロフェッショナル・ラーニング・コミュニティを構築している秋田県 | | |
| 第8章 | プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティ構築を推進している福井県 | | |



(教育出版ウェブサイトより)

参考図書



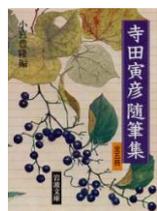
■森 信三「修身教授録」 致知出版社(採用内定者研修図書)

「70代のはじめに、この書物で心を洗われた幸せを思う。奥深い心理が、実に平明に、ていねいに語られていて、おのずと心にしみてくる。よほど愛と謙虚さと使命感と責任感がなければ出来ないことだ」伝記文学の第一人者、小島直記先生が、本書にご寄稿いただいた「推薦の言葉」の抜粋である。本書は、在野の哲人・森信三先生が昭和12年から14年の2年間、大阪天王寺師範学校本科で行われた講義を改めて編集し刊行したものである。(Amazon ウェブサイトより)



■フィリップ・スコフィールド「ベンサムー功利主義入門」慶應義塾大学出版会(採用内定者研修図書)

現代のさまざまな分野に、実践・理論の両面で大きな影響を及ぼしているジェレミー・ベンサム。本書は、彼の膨大な草稿類を整理・校訂するベンサム・プロジェクトを牽引し、新著作集の編集主幹をつとめる、「世界一ベンサムを知る」著者による本格的な入門書である。苦痛と快楽が基礎づける原理(功利性の原理)による立法の科学を構想し、共同体の幸福=「最大多数の最大幸福」を目指したこの思想家の全貌を平易に解説し、従来触れられてこなかった宗教と性、拷問に関する理論に言及するなど、最新の研究成果をもとに彼の功利主義思想を体系的に論じる。(Amazon ウェブサイトより)



■寺田寅彦「寺田寅彦随筆集(全5冊)」岩波文庫(採用内定者研修図書)

小宮豊隆 編。寺田寅彦(1878~1935)の随筆は芸術感覚と科学精神との希有な結合から生まれ、それらがみごとな調和をたもっている。しかも主題が人生であれ自然であれ、その語り口からはいつも温い人間味が伝わってくる。二十代から最晩年の五十代後半まで書きつがれた数多の随筆から珠玉の百余篇を選んでこれを五巻に編んだ。(岩波書店ウェブサイトより)

芦泉荘からのお知らせ

～ 各種行事の打ち上げや歓送迎会は是非当保養所をご利用ください！～

● ご予算に合わせた各種プランをご用意 ●

☆「青葉」1泊2食付 平日 8,300円

☆「柚山」1泊2食付 平日 10,100円

☆「文殊」1泊2食付 平日 11,900円

☆「足羽」1泊2食付 平日 14,900円

★ヘルシー美食プラン 平日 10,500円

◎ 団体様に最適な飲み放題、二次会付プランもご用意しております！

「幹事代行プラン」1泊2食付 14,000円



1万円以上のプランをご利用の場合、宿泊利用補助券2,500円をお1人様につき2枚同時にご使用になれます。また、教職員互助会発行「契約施設旅行社取扱宿泊利用補助券」2,000円を2枚使用すれば「柚山」コースが1,100円でご利用になれます。

詳しいお問合せについては TEL:0776-77-3200 までご連絡ください。

ご宿泊の方に限り、休憩利用補助券1,000円を売店で使用することができます

ご意見をお寄せください。

福井県のウェブサイト「学習・教育」のページに教育情報誌「明日への学び」のバックナンバーを掲載しています。(http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/gakukyousei/asuhenomanabi.html)

明日への学び で検索してください。

バックナンバーをホームページに掲載しています。

住所：福井市大手 3-17-1

連絡先：福井県教育庁学校教育政策課

TEL：0776-20-0295

FAX：0776-20-0668

Mail：gakukyousei@pref.fukui.lg.jp